

NEW PROTEIN HUCEP-1 HAVING ACTIVITY FOR ACTIVATING NERVE CELL FUNCTION

Patent number: JP10257891

Publication date: 1998-09-29

Inventor: YOSHIMOTO MAKOTO; YAZAKI MADOKA; MATSUMOTO YOSHIYO; TAKAYAMA KIYOSHI

Applicant: TAISHO PHARMACEUT CO LTD

Classification:

- **International:** C12N15/09; A61K38/00; C07H21/04; C07K14/47; C12N1/21; C12P21/02

- **european:**

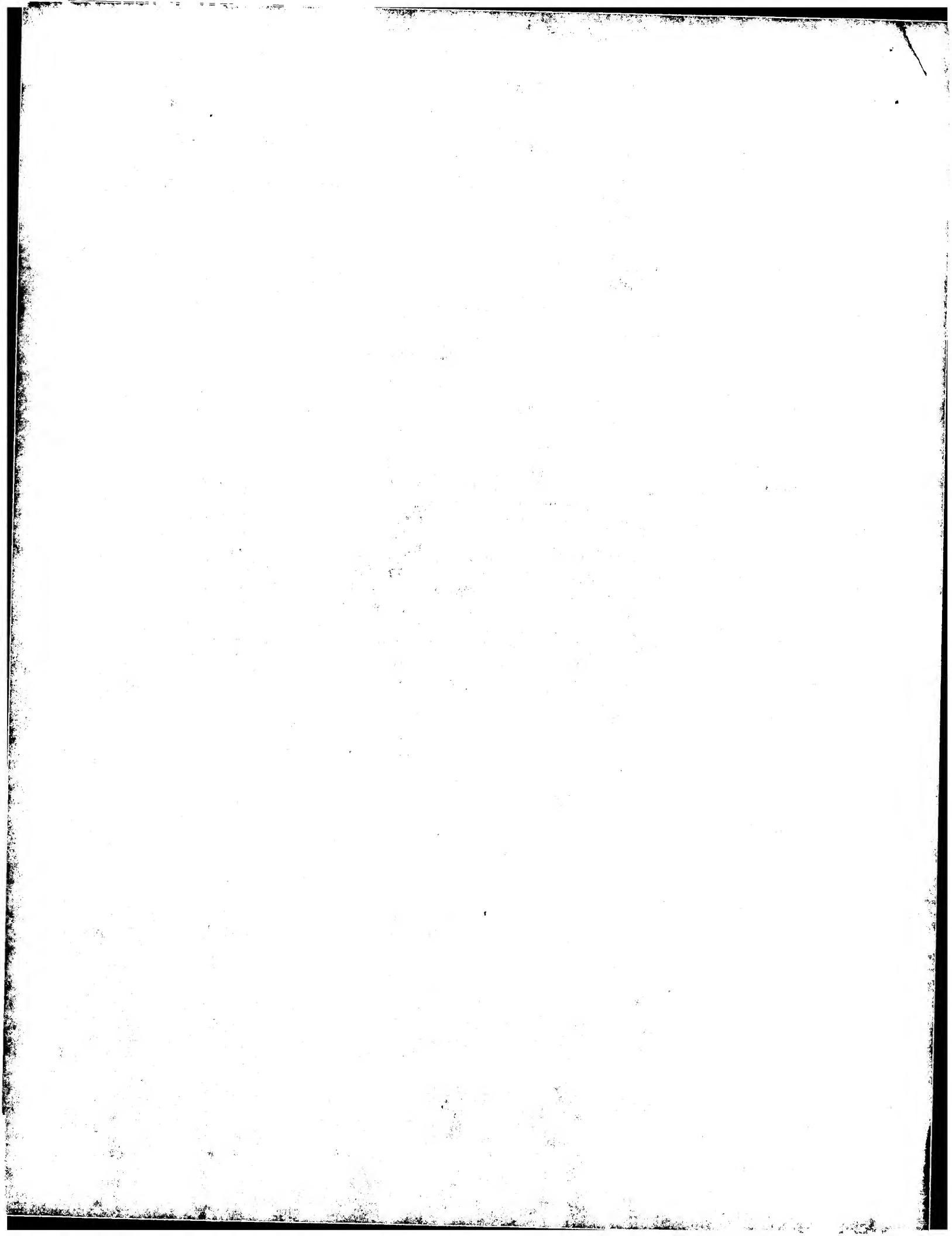
Application number: JP19970065716 19970319

Abstract of JP10257891

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a new protein useful for research and a therapeutic agent, etc., of nerval denaturation disease such as Parkinson disease or Alzheimer disease, having a specific amino acid sequence and comprising a protein HUCEP-1 exhibiting activity for activating nerve cell function.

SOLUTION: This new protein is an HUCEP-1 comprising an amino acid sequence of the formula and having an activity for activating nerve cell function, or a protein comprising an amino acid sequence in which one or several amino acids are deleted, substituted or added in an amino acid sequence of the formula and having an activity for activating nerve cell function, and is useful as a research reagent for cause elucidation or a therapeutic agent, etc., of nerval denaturation disease such as Parkinson disease or Alzheimer disease. The protein is obtained by cloning the HUCEP-1 gene from a cDNA library prepared based on mDNA separated from a human cerebral cortex, integrating the resultant gene into a manifestation vector and manifesting itself in a host cell.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-257891

(43)公開日 平成10年(1998)9月29日

(51)Int.Cl.⁶
C 12 N 15/09
A 61 K 38/00
C 07 H 21/04
C 07 K 14/47
C 12 N 1/21

識別記号
ZNA
AAB

F I
C 12 N 15/00
C 07 H 21/04
C 07 K 14/47
C 12 N 1/21
C 12 P 21/02

ZNAA
B
C

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全17頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平9-65716

(22)出願日 平成9年(1997)3月19日

(71)出願人 000002819
大正製薬株式会社
東京都豊島区高田3丁目24番1号
(72)発明者 吉本 真
東京都豊島区高田3丁目24番1号 大正製
薬株式会社内
(72)発明者 矢崎 まどか
東京都豊島区高田3丁目24番1号 大正製
薬株式会社内
(72)発明者 松本 佳代
東京都豊島区高田3丁目24番1号 大正製
薬株式会社内
(74)代理人 弁理士 浅村 皓 (外3名)
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 神経細胞機能賦活化活性を有する新規蛋白質HUCEP-1

(57)【要約】

【課題】 ヒト大脳皮質由来の神経細胞賦活化活性を有する新規蛋白質HUCEP-1と、それをコードする遺伝子h u c e p - 1を提供する。

【解決手段】 ヒト大脳皮質由来のcDNAライブラリーからのクローニングによって神経細胞賦活化活性を有する新規蛋白質HUCEP-1をコードする遺伝子h u c e p - 1が得られ、該遺伝子を有する発現ベクターによる形質転換体の培養により、新規蛋白質HUCEP-1が得られる。該蛋白質は、神経細胞賦活化活性物質として、医薬または医薬の開発に用いることができる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 以下の(a)または(b)の蛋白質：
(a)配列番号：1に記載のアミノ酸配列からなる、神経細胞機能賦活化活性を有する新規蛋白質HUCEP-1；

(b)配列番号：1のアミノ酸配列において1もしくは数個のアミノ酸が欠失、置換もしくは付加されたアミノ酸配列からなり、かつ神経細胞機能賦活化活性を有する蛋白質。

【請求項2】 請求項1に記載の(a)または(b)の蛋白質をコードする遺伝子。

【請求項3】 以下の(a)または(b)からなる遺伝子：
(a)配列番号：2に記載の塩基配列からなるDNA；

(b)配列番号：2のDNAとストリンジェンドな条件でハイブリダイズし、かつ神経細胞機能賦活化活性を有する蛋白質をコードするヒト由来のDNA。

【請求項4】 請求項2または請求項3に記載の遺伝子を含有する組み換えベクターを含む形質転換体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、神経細胞機能に対して賦活化活性を有する、新規蛋白質HUCEP (Human Cerebral Protein)-1、該蛋白質をコードするDNA、該遺伝子を発現させるための組み換えDNA、および組み換えDNAによって得られる形質転換体に関するものである。

【0002】

【従来の技術】神経変性疾患の多くは、神経細胞または神経細胞間の信号伝達に異変が生じることにより、神経細胞が死滅し発症するとされている。このような神経変性疾患の代表例として、パーキンソン病やアルツハイマー症が挙げられる。パーキンソン症は、黒質神経細胞が変性して神経伝達物質の一つであるドーパミンが産生されなくなり、ドーパミン作動性の神経細胞が死ぬことにより発症すると言われている。一方、アルツハイマー病は主に大脳皮質や海馬の神経細胞が死ぬことによって痴呆症状を呈するとされている。以上に述べた疾患に対しては、その原因が明確にされていないことから有効な治療薬がなく、対症療法しか行えないのが現状であり、現在これらの疾患にともなう神経細胞死の原因を明らかにすべく多くの研究がなされているが、未だ解明されていない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記諸疾患の原因であると考えられる神経細胞死のメカニズムを解明し、これに関与する蛋白質並びにそれをコードする遺伝子を特定することは、神経細胞死に起因する疾患の根本的な治療薬を探索する上で、きわめて重要なことである。例えば、神経細胞死に関与する蛋白質それ自体に有効な医薬

となり得る可能性があることは勿論、このような蛋白質は、該蛋白質の機能と同様の機能を有する物質、当該機能を阻害または促進する作用を有する物質等を医薬として開発するに際しても、極めて有用である。以上の観点から、神経細胞死に関与する蛋白質とその機能の解明が望まれている。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、神経細胞の生存あるいは神経細胞の機能の維持に関与する蛋白質の同定を目的とし、ヒト脳組織で特異的に発現している遺伝子にコードされている蛋白質の中から、所望の神経細胞機能の維持に関与する蛋白質を把握するべく鋭意研究の結果、新規蛋白質HUCEP-1の存在とそれをコードする遺伝子hucep-1の単離に成功した。そして、このHUCEP-1が神経細胞機能賦活化活性を有し、神経変性疾患に関与するものであることを突き止め、本発明を完成するに至った。

【0005】即ち、本発明は、(a)配列番号：1に記載のアミノ酸配列からなる、神経細胞機能賦活化活性を有する新規蛋白質HUCEP-1、または(b)配列番号：1のアミノ酸配列において1もしくは数個のアミノ酸が欠失、置換もしくは付加されたアミノ酸配列からなり、かつ神経細胞機能賦活化活性を有する蛋白質、に関するものである。さらに本発明は、上記(a)または(b)に表された蛋白質をコードする遺伝子、に関するものである。さらに本発明は、(c)配列番号：2に記載の塩基配列からなるDNA、または(d)配列番号：2のDNAとストリンジェンドな条件でハイブリダイズし、かつ神経細胞機能賦活化活性を有する蛋白質をコードするヒト由来のDNA、に関するものである。さらに本発明は上記遺伝子を含有する組み換えベクターを含む形質転換体、に関するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】遺伝子hucep-1は、ヒト大脳皮質由来のcDNAライブラリーから、該遺伝子を含んだcDNA断片として単離することができる。本発明者らが使用したcDNAライブラリーは、クローンテック社から市販されているヒト大脳皮質のmRNAをもとに調製したものであるが、ストラタジーン社から市販されているヒト大脳皮質のmRNAをもとにしても、同様にcDNAを調製することができる。

【0007】上述のcDNAライブラリーにおいて、ヒト脳組織で特異的に発現している遺伝子を有すると思われるcDNAを識別する方法として、大久保らの方法(Okubo et al., Nature Genet., 2, 173 (1992))による、遺伝子発現の出現頻度を解析する方法を用いることができる。具体的には、ヒト大脳皮質のmRNAを錆型とし、適当な制限酵素で開環させたベクタープラスミドの一端にオリゴdTを結合させたものをプライマーとしてcDNA合成を

行った後、制限酵素Mbo Iと制限酵素BamH Iで切断する。当該ベクターはd amメチラーゼ陽性の大腸菌を宿主として調製されたため、Mbo Iの認識配列である「GATC」のA残基がメチル化されている。従ってMbo Iは新たに合成されたc DNA部分のみを切断する。当該ベクターはオリゴdTを結合させた末端とは反対側の末端近傍にBamH I切断部位を1ヶ所だけ有しているので本酵素は当該ベクターを1ヶ所切断し、さらに新たに合成されたc DNA部分にもしBamH I認識配列が存在すれば、その部位も切断する。BamH IとMbo Iは「GATC」なる配列からなる、同一の付着端を生ぜしめるため、両酵素で切断した後、DNAリガーゼを作用させれば、プラスミドを閉環することができる。

【0008】本方法においてはこのようにして調製したプラスミドを用いて大腸菌を形質転換することによってc DNAライブラリーを構築した。従って当該ライブラリーは各mRNAの3'端のポリA部位から、その5'側部分のうち最初にGATCなる塩基配列が出現する部位までの領域を含んでいる。当該c DNAライブラリーから無作為に適当個数の組換え体を選択し、各組換え体中のc DNAを抽出してその全塩基配列を決定する。本法は、このようにして決定された特定配列を有するc DNA断片が、無作為に選択された組み換え体の中から幾つ確認されるかをもって、臓器特異的遺伝子及び高発現遺伝子を識別する方法である。本法において、組み換え体c DNAの抽出並びにc DNAの塩基配列の決定は、いずれも当業者にとって自体公知の各種操作方法(Molecular Cloning, 2nd. ed., Cold Spring Harbor Lab. Press, 1989、その他当業者にとって標準的な方法を紹介した技術解説書等に記載の方法、以下常法とする)により行うことができる。

【0009】尚、高発現遺伝子を識別する方法では、無作為に選択する組み換え体の総数は数百から千程度が適当であるが、必要ならばそれ以上の個数の組み換え体を処理すればよい。本発明者らは上記方法を実施し、770個の組み換え体中のc DNA断片の塩基配列を全て決定し、その中から、同一の配列を有するc DNAとしての出現頻度が2/770であったc DNA断片を、ヒト脳で特異的に発現している遺伝子を有するDNA断片の候補として選別した。

【0010】上記c DNA断片は前述したとおり、mRNAの3'端の一部の領域しか含んでいない。そこで本発明者らは当該領域(以下3'断片)の塩基配列情報を元にして、全鎖長c DNAを取得した。これはクローンテック社から市販されているヒト大脳皮質c DNAライブラリーを錆型とし、上記3'断片内の配列を有する適当な長さのオリゴヌクレオチドとベクター中の配列を有する同程度の長さのオリゴヌクレオチドをそれぞれ合成

し、これらをプライマーとして用いることによって、PCR法を用いて行った。その結果、約1.7kbのDNA断片を増幅することができた。この際、錆型としてはストラタジーン社から市販されているヒト大脳皮質c DNAライブラリーを用いることもできる。これはまた、クローンテック社またはストラタジーン社から市販されているヒト大脳皮質のmRNAを錆型とし、クローンテック社またはギブコ社の5'RACEキットを用いることによっても行うことができる。さらにこれはまた、上記3'断片をプローブとして、上記ヒト大脳皮質c DNAライブラリーをコロニーハイブリダイゼーションまたはブラークハイブリダイゼーションで、常法に従ってスクリーニングすることによっても行うことができる。

【0011】上記方法によって増幅したc DNA断片は、ノバジェン社から市販されているpT7Blue T-ベクターに組み込み、常法に従って全塩基配列を決定した。この際、組換えDNAを独立に2クローン取得して、それぞれのc DNA断片の塩基配列を決定することにより、配列の確認を行った。上記方法によって選別したc DNA断片中に存在すると思われる遺伝子が、脳組織で特異的に発現していることの確認は、該c DNA配列の臓器特異的な発現頻度をノーザンハイブリダイゼーションで確認することで行うことができる。具体的には、クローンテック社またはストラタジーン社から市販されている、ヒトの各臓器から抽出したmRNAをアガロースゲル電気泳動で分画し、メンブレンフィルターに転写した後、上記方法によって選別したc DNA断片をプローブとして、常法に従ってハイブリダイゼーションを行った。本発明者らはこの方法を用い、該c DNA配列の発現についての臓器特異性を調べた。その結果、脳以外の他の臓器、器官、細胞等でも該c DNA配列の多少の発現が認められたものの、それに比べ大脳皮質で特異的に発現していたことを確認した。さらに、該c DNA配列の発現の有無を、アルツハイマー病の大脳皮質で確認したところ、このような神経変性疾患に罹患した大脳では該c DNA配列の発現は認められなかった。このことは、該c DNA配列中に、ヒト脳で特異的に発現し正常な脳機能の維持に必須である所望の遺伝子が存在することを、強く示唆するものである。

【0012】塩基配列中の蛋白質をコードする領域(ORF, open reading frame)の存在は、塩基配列をコンピュータープログラムを用いて解析する汎用の方法により確認することができる。該c DNA配列の中に目的とする遺伝子の存在を確信した本発明者らは、コンピューターを利用して該配列中に一つのORFを見いだし、この遺伝子を遺伝子hucep-1(human cerebral proteinの略)、該遺伝子にコードされる蛋白質をHUCEP-1と命名した。

【0013】遺伝子hucep-1は、配列番号:2に示される1368塩基対(b-p)からなる遺伝子であ

る。この遺伝子 *h u c e p - 1* を用い、適当な宿主ベクター系による一般的な遺伝子組み換え技術によって、組み換え遺伝子を調製することができる。適当なベクターとしては、大腸菌由来のプラスミド（例、pBR322、pUC118その他）、枯草菌由来のプラスミド（例、pUB110、pC194その他）、酵母由来のプラスミド（例、pSH19その他）、さらにバクテリオファージやレトロウィルスやワクシニアウィルス等の動物ウィルス等が利用できる。組み換えに際しては、適当な合成DNAアダプターを用いて翻訳開始コドンや翻訳終止コドンを付加することも可能である。さらに該遺伝子を発現させるために、遺伝子の上流に適当な発現プロモーターを接続する。使用するプロモーターは、宿主に応じて適宜選択すればよい。例えば、宿主が大腸菌である場合には、T7プロモーター、lacプロモーター、trpプロモーター、λPLプロモーターなどが、宿主がバチルス属菌である場合にはSPO系プロモーター等が、宿主が酵母である場合にはPHO5プロモーター、GAPプロモーター、ADHプロモーター等が、宿主が動物細胞である場合にはSV40由来プロモーター、レトロウィルスプロモーター等が、それぞれ使用できる。

【0014】また該遺伝子を他の蛋白質（例、グルタチオンSトランスフェラーゼ、プロテインAその他）との融合蛋白質として発現させることも可能である。このようにして発現させた融合型HUCEP-1は、適当なプロテアーゼ（例、トリロビンその他）を用いて切り出すことが可能である。HUCEP-1の発現の際に利用できる宿主としては、エシェリヒア属菌である *Escherichia coli* の各種菌株、バチルス属菌である *Bacillus subtilis* の各種菌株、酵母としては *Saccharomyces cerevisiae* の各種菌株、動物細胞としてはCOS-7細胞、CHO細胞、PC12細胞等が利用できる。上記組み換えベクターを用いて宿主細胞を形質転換する方法としては、常法または各宿主細胞に対して一般に用いられる形質転換方法が適用できる。本発明者らは、pGEX-4T2（ファルマシア社製）を発現ベクターとして遺伝子 *h u c e p - 1* を組み換え、HUCEP-1発現ベクター、pGEhucep1を調製した。このpGEhucep1を用い、常法に従って形質転換した *Escherichia coli* DH5/pGEhucep1は、平成9年1月8日に工業技術院生命工学技術研究所に受託番号FERM P-16029として寄託されている。

【0015】更に本発明者らは、pREP10（インビトロジェン社製）を発現ベクターとして遺伝子 *h u c e p - 1* を組み換え、HUCEP-1を培養動物細胞内で発現させるためのベクター、pREhucep1を調製した。このpREhucep1を用い、ギブコ社のLI

POFECTAMINE試薬を利用して、神経細胞PC12を形質転換し、形質転換体、PC12/pREhucep1を調製した。形質転換された細胞は、用いたベクターに存在する選択マーカー、または適当な選択マーカーを付与又は削除し、これら選択マーカーの有無に基づいて識別することにより、単離する事ができる。本発明者らが行った、PC12細胞をpREhucep1で形質転換した場合には、抗生素質ハイグロマイシンB耐性を指標として形質転換体を識別、単離することができる。

【0016】上記操作の結果得られた形質転換細胞内の目的遺伝子の発現は、実施例において後述するように、ノーザンハイブリダイゼーションにより確認することができる。宿主として用いた神経細胞PC12およびベクターであるpREP10を導入したPC12細胞を通常の増殖培地からNGF（神経細胞成長因子）を除去した培地に移すと細胞死を起こすが、pREhucep1により形質転換された神経細胞PC12は、NGF除去培地でも生育することが、例えばMTT (3-(4,5-Dimethylthiazol-2-yl)-2,5-diphenyl-tetrazolium bromide)法 (Mossman, T., J. Immunol Methods 65, 55-59 (1985))により確認された。

【0017】新規蛋白質HUCEP-1は、配列番号：1に示されるごとく、総数456個のアミノ酸残基からなる、分子量50,657ダルトンの蛋白質である。前述のように、遺伝子 *h u c e p - 1* を含有する組み換えベクターで形質転換させた神経細胞PC12が、NGF（神経細胞成長因子）の非存在下において有意に高い生存率を示したことから、HUCEP-1は神経細胞機能賦活化活性を有する生理活性蛋白質であることが確認された。

【0018】尚、本発明においては、配列番号：2に示したDNA配列の他に、該DNAとハイブリダイズしかつ神経細胞機能賦活化活性を有する生理活性蛋白質をコードするDNAも、本発明の範囲内である。すなわち、遺伝子 *h u c e p - 1* の全長配列において、種々の人为的処理、例えば部位特異的変異導入、変異剤処理によるランダム変異、制限酵素切断によるDNA断片の変異・欠失・連結等により、部分的にDNA配列が変化したものであっても、これらDNA変異体が遺伝子 *h u c e p - 1* とストリンジェンドな条件下でハイブリダイズし、かつ神経細胞機能賦活化活性を有する生理活性蛋白質をコードするDNAであれば、配列表2に示したDNA配列との相違に関わらず、本発明の範囲内のものである。

【0019】また、配列番号：2に示したDNA配列と僅かに異なる配列からなる遺伝子が、ヒト染色体上に遺伝子 *h u c e p - 1* とは別個に存在する可能性もあり得るが、この場合においても、そこにコードされる蛋白質

が神経細胞機能賦活化活性を有する生理活性蛋白質であれば、上記人為的変異体と同様に本発明の範囲内のある。上記のDNA変異の程度は、遺伝子hucep-1のDNA配列と90%以上の相同性を有するものであれば許容範囲内である。また、遺伝子hucep-1とハイブリダイズする程度としては、通常の条件下（例えば DIG DNALabeling kit（ベーリンガー・マンハイム社製 Cat No. 11750 33）でプローブをラベルした場合に、32°CのDIG Easy Hyb溶液（ベーリンガー・マンハイム社製 Cat No. 1603558）中でハイブリダイズさせ、50°Cの0.5×SSC溶液（0.1%[w/v] SDSを含む）中でメンブレンを洗浄する条件（1×SSCは0.15M NaCl、0.015M クエン酸ナトリウムである）でのサザンハイブリダイゼーションで、遺伝子hucep-1にハイブリダイズする程度であればよい。

【0020】また、上記のごとく遺伝子hucep-1と相同性の高い変異体遺伝子にコードされる蛋白質であって、神経細胞機能賦活化活性を有する生理活性蛋白質もまた、本発明の範囲内のある。すなわち、新規蛋白質HUCEP-1のアミノ酸配列の1もしくは複数個のアミノ酸が欠失、置換もしくは付加された変異体であっても、該変異体が神経細胞機能賦活化活性を有する蛋白質であれば、該変異体は本発明の範囲内のある。蛋白質の構成要素となるアミノ酸の側鎖は、疎水性、電荷、大きさなどにおいてそれぞれ異なるものであるが、実質的に蛋白質全体の3次元構造（立体構造とも言う）に影響を与えないという意味で保存性の高い幾つかの関係が、経験的にまた物理化学的な実測により知られている。例えば、アミノ酸残基の置換については、グリシン(Gly)とプロリン(Pro)、Glyとアラニン(Ala)またはバリン(Val)、ロイシン(Leu)とイソロイシン(Ile)、グルタミン酸(Glu)とグルタミン(Gln)、アスパラギン酸(Asp)とアスパラギン(Asn)、システイン(Cys)とスレオニン(Thr)、Thrとセリン(Ser)またはAla、リジン(Lys)とアルギニン(Arg)、等が挙げられる。

【0021】従って、配列番号：1に示した新規蛋白質HUCEP-1のアミノ酸配列上の置換、挿入、欠失等による変異蛋白質であっても、その変異がHUCEP-1蛋白質の3次元構造において保存性が高い変異であって、その変異蛋白質がHUCEP-1と同様に神経細胞機能賦活化活性を有する生理活性蛋白質であれば、これらは本発明の範囲内にあるものと言うことができる。変異の程度としては、配列表1に示したアミノ酸配列との相同性が、90%以上のものが許容し得る範囲である。

【0022】

【発明の効果】HUCEP-1が神経細胞賦活化活性を

有していることから、遺伝子hucep-1の発現異常、あるいはHUCEP-1の機能不全は、脳の高次機能を維持する上で重大な障害となると推測される。したがってHUCEP-1それ自体は虚血性脳疾患やアルツハイマー病、パーキンソン病などの神経変性疾患の治療薬として有用と考えられる。また、当該蛋白質の機能と同様の機能を有する物質、当該機能を促進する物質、あるいはまた当該遺伝子の発現を促進する物質等の創出に利用することができる。以下実施例を挙げて詳述するが、本発明はこの実施例に限定されることは言うまでもない。

【0023】

【実施例】

実施例1 遺伝子hucep-1のクローニング

1) 大脳の正常機能の維持に必須な遺伝子の部分配列の決定

ヒト大脳皮質のmRNA（クローンテック社）を錠型として、大久保らの方法（Okubo et al. Nature Genet. 1992, 2, p173）により、大脳皮質のcDNAライブラリーを作成した。次いで、当該ライブラリーから無作為に770個の組換え体を選択し、常法（Molecular Cloning, 2nd. ed., Cold Spring Harbor Lab. Press, 1989、以下同じ）に従って、組換えDNAを抽出し、cDNA部分の3'側の塩基配列を決定した。配列決定にはPEアプライドバイオシステムズ社製のDNAシークエンサー（ABI PRISM 377）と同社製反応キットを用いた。770個の組み換え体中の各DNA断片の発現頻度を解析した結果、図1に示す配列（配列-1）を有する遺伝子の発現頻度が2/770であった。

【0024】2) 配列-1を含むDNA断片の增幅

配列-1を含むDNA断片の增幅を以下の方法により行った。まず、配列-1の一部分よりなるオリゴヌクレオチド（図1；配列-2及び配列-3）を、PEアプライドバイオシステムズ社製のDNA合成機（ABI 380B）で合成した。次いで、ラムダファージクローニングベクター（λDR2）のcDNA挿入部位近傍の配列を有するオリゴヌクレオチド（図1；配列-4及び配列-5）を、同様に合成した。λDR2をクローニングベクターとする、Human Brain cerebral cortex 5'-STRETCH cDNA library（クロンテックラボラトリーズ社製）を錠型とし、配列-2のオリゴヌクレオチドと配列-4のオリゴヌクレオチドをプライマーとしてPCRを行った。当該反応には宝酒造（株）製のキット（タカラ LAPCR Kit Ver. 2）を用い、宝酒造（株）製のPCRサーマルサイクラーMPを使用した。

反応組成液

cDNA library($\geq 10^8$ pfu/ml) ... 5 μ l ...

10×PCR 緩衝液(25mM Mg ²⁺ 含有)	5 μl
2.5mM dNTP	1 μl
10μM オリゴヌクレオトド(配列-2)	2 μl
10μM オリゴヌクレオトド(配列-4)	2 μl
水	34.5 μl
LA Taq [®] リマーベ'	0.5 μl
総量	50 μl

反応条件

94°Cで2分保持後、98°Cで20秒間反応させ、68°Cまで-1°C/2秒の速度で冷却し、68°Cで3分保持し、更に72°Cで10分間保持した。これを30回繰り返して、目的配列を増幅させた。

【0025】さらに、上記PCR反応液の一部を錆型とし、配列-3のオリゴヌクレオチドと配列-5のオリゴヌクレオチドをプライマーとして、以下の方法により再度PCRを行った。

反応組成液

一回目のPCR 反応液	1 μl
10×PCR 緩衝液(25mM Mg ²⁺ 含有)	5 μl
2.5mM dNTP	1 μl
10μM オリゴヌクレオトド(配列-3)	2 μl
10μM オリゴヌクレオトド(配列-5)	2 μl
水	38.5 μl
LA Taq [®] リマーベ'	0.5 μl
総量	50 μl

反応条件

94°Cで2分保持後、98°Cで20秒間反応させ、68°Cまで-1°C/2秒の速度で冷却し、68°Cで3分保持し、更に72°Cで10分間保持した。これを30回繰り返して、目的配列を増幅させた。

上記方法により、配列-1の一部を有するDNA断片(約1.7kb)を特異的に増幅させた(図2)。

【0026】3) 塩基配列決定用ベクターへのサブクローニング

2)で増幅したDNA断片を、常法に従ってアガロースゲル電気泳動(ゲル濃度1%)で分画した。ゲルをエチジウムプロマイドで染色した後、紫外光照射して目的とするバンドを含むゲルを切り出した。アガロースゲルからのDNA断片の抽出と精製は、GENE CLEAN II Kit(バイオ101社製)を用いて行った。この精製DNA断片を、以下の方法により塩基配列決定用ベクター、pT7 Blue T-Vector(ノバジェン社製)にサブクローニングした。Ligation溶液は、宝酒造(株)製のキット(タカラDNA Ligation Kit Ver. 2)を用い、16°Cで1.5時間反応させた。

反応組成液

PCR 産物	1 μl(50ng)
T7 Blue T-vector	1 μl(17ng)
水	3 μl

Ligation溶液

5 μl

【0027】上記反応溶液を用いて常法に従って大腸菌K12株DH5αの形質転換を行った。形質転換体をアンピシリン(Amp) 50 μg/ml、5-Bromo-4-Chloro-3-indolyl-β-D-galactoside(X-gal) 40 μg/ml、Isopropyl-β-D-Thio-Galactopyranoside(IPTG) 100 μMを含有するLB寒天培地にプレーティングし、37°Cで一晩培養した。白色コロニーを50 μg/mlのAmpを含むLB液体培地10 mlに接種して37°Cで一晩培養し、遠心分離によって菌体を集めめた後、QIAprep Spin Plasmid Miniprep Kit(キヤゲン社製)で組換えDNAを精製した。

【0028】4) DNA断片の塩基配列の決定

塩基配列決定にはPEアプライドバイオシステムズ社製のDNAシークエンサーを用い、ダイターミネーター法を用いた。決定された塩基配列を元にしてオリゴヌクレオチドを合成し、プライマーウォーキング法で全塩基配列を決定した(図3)。両鎖の塩基配列を決定し、また独立した2クローンの塩基配列を決定することにより、配列を確認した。上記2クローンの塩基配列は全く同一であった。当該クローンのcDNAの全塩基配列を図4A~Cに示す。当該塩基配列が配列-3、及び配列-1のうち配列-3の上流領域を含んでいたことから、目的とする遺伝子(human cerebral protein-1、hucep-1)がクローニングされたことを確認した。当該cDNAは456残基より成る蛋白質(HUCEP-1)をコードする翻訳領域(open reading frame、ORF)を含んでいる(図4)。該蛋白質の開始コドンであるメチオニン残基の上流域に同じreading frameで終止コドンが出現した(図4)ことから、当該cDNA断片がコードする蛋白質のアミノ酸配列は図4に示したもののが唯一のものであることが確認された。

【0029】5) 大腸菌を用いたHUCEP-1の生産
図4に示した配列を元にして配列-6、配列-7のオリゴヌクレオチドを、DNA合成機(PEアプライドバイオシステムズ社製、ABI 380B)で合成した。

配列-6

5'TCTAGGATCCATGTTGAAGAGCCTGAG

配列-7

5'TAGTGAATTCTATCACCTGCGCTTGTAGAG

λDR2をクローニングベクターとする、Human Brain cerebral cortex 5'-STRETCH cDNA library(クロンテックラボラトリーズ社製)を錆型とし、配列-6と配列-7のオリゴヌクレオチドをプライマーとしてPCRを行った。PCRは実施例1~2)に記載した条件で行つ。

た。上記方法により増幅されたDNA断片をアガロースゲル電気泳動で分画、精製した。当該精製cDNA断片を、制限酵素EcoRIとBamHI（共に宝酒製造）で切断した。切断処理後、再びアガロースゲル電気泳動で分画し、約1.4kbのDNA断片を精製した（断片-1）。pGEX-4T2（ファルマシア社製）を、上記と同様に制限酵素EcoRIとBamHIで切断し、開環ベクター（断片-2）を精製した。断片-1と断片-2を混合し、実施例1-3）に記載した条件下で、ライゲーションならびに大腸菌K12株DH5株の形質転換を行い、さらに該形質転換体を培養して遠心によって集めた菌体から、組換えDNAを精製した。当該組換えDNAに挿入された断片-1の塩基配列を、以下に示す配列-8及び配列-9のプライマー、及び実施例1-4）で塩基配列を決定する際に用いたプライマーを利用し、DNAシーケンサーで決定した。

配列-8

5'GGGCTGGCAAGCCACGTTGGTG

配列-9

5'CCGGGAGCTGCATGTGTCAGAGG

その結果、当該断片-1の塩基配列がhucep-1の塩基配列と同一であること、及びhucep-1がpGEX-4T2内のグルタチオンSトランスフェラーゼ遺伝子と同じリーディングフレームで翻訳されることを確認した。このようにして構築した組換えDNAをpGEhucep1と命名した（図5）。pGEhucep1の形質転換体Escherichia coli DH5/pGEhucep1は、平成9年1月8日に工業技術院生命工学技術研究所に受託番号FERM P-16029として寄託されている。当該組換えDNAを保持する菌体を培養し、適当な条件下に遺伝子発現を誘導すればHUCEP-1をグルタチオンSトランスフェラーゼとの融合蛋白として生産することができる。また、pGEhucep1に組み込まれた遺伝子hucep-1は、制限酵素EcoRIとBamHIを該組み換えベクターに作用させることで単離され、これを別の適当な発現ベクターに組み換えることもできる。

【0030】実施例2 PC12細胞中でのhucep-1遺伝子の発現と機能の解析

1)発現ベクターpREhucep1の構築

実施例1で取得した、hucep-1を含むcDNA断片を配列-6のプライマーと以下に示す配列-10のプライマーを用い、PCR法によって増幅した。PCRは実施例1に記載した条件で行った。

配列-10

5'TAGTAAGCTTCACCTGCGCTTGTAGAG

PCR産物を実施例1と同様にアガロースゲル電気泳動で分画、精製した。当該精製cDNA断片を、制限酵素HindIIIとBamHI（共に宝酒製造）で切断した。切断処理後、再びアガロースゲル電気泳動で分画

し、約1.4kbのDNA断片を精製した（断片-3）。動物細胞の発現ベクター、pREP10（インビトロジェン社製）を、上記と同様に制限酵素HindIIIとBamHIで切断し、開環ベクター（断片-4）を精製した。

【0031】断片-1と断片-2を混合し、実施例1に記載した条件下で、ライゲーションならびに大腸菌K12株DH5株の形質転換を行い、さらに該形質転換体を培養して遠心によって集めた菌体から、組換えDNAを精製した。当該組換えDNAに挿入された断片-3の塩基配列を、以下に示すプライマー、及び実施例1で塩基配列を決定する際に用いたプライマーを利用し、DNAシーケンサーで決定した。

配列-11

5'TTGCAGCTTATAATGGTTAC

配列-12

5'ACTGAATTCCGCATTGCG

その結果、当該断片-3の塩基配列がhucep-1の塩基配列と同一であることを確認した。このようにして構築した組換えDNAをpREhucep1と命名した（図6）。

【0032】2) PC12細胞への導入と安定な形質転換体の取得

PC12細胞を直径60mmのプラスチックシャーレで培養した。シャーレはコラーゲンコートしたものを用い、培地としては5%牛胎児血清、5%ウマ血清、50ユニット/mlベニシリン、50μg/mlストレプトマイシンを含むDMEM（ギブコ社製、以下増殖培地とする）を使用し、37℃、5%CO₂存在下で培養した。細胞密度が50%になった時点で、1)で構築したpREhucep1を含むLIPOFECTAMINE試薬（ギブコ社製）を、細胞上に重層して24時間培養した後、増殖培地に置換して24時間培養した。ビベッティングで細胞を分散した後、細胞懸濁液を2等分して直径100mmのプラスチックシャーレ2枚に分注してさらに24時間培養した。培地を除いた後、ハイグロマインB（カルビオケム社製；終濃度400μg/ml）を含有する増殖培地に置換した。ハイグロマインB添加培地を3日毎に交換して2週間培養した。細胞のコロニーが肉眼で確認できるようになった時点で、ステンレスカップを用いてコロニーを5個単離した。対照として用いるためにPC12細胞にpREP10のみを上記と同様にして導入し、安定な形質転換体を5個単離した。

【0033】3) 遺伝子発現の確認

単離した各形質転換体を、24穴のプレートでハイグロマインB添加培地（終濃度400μg/ml）で培養し、細胞密度が80%コンフルエントになった時点でビベッティングで細胞を分散して、直径100mmのプラスチックシャーレに接種した。細胞密度が再度80%コ-

ンフルエントになった時点での培地を除去し、PBSを添加してセルスクレイパーを用いて細胞を回収した。遠心によって細胞を沈殿させた後に上清を除去し、mRNA抽出キット（ファルマシア バイオテク社製）を用いて細胞からmRNAを精製した。2μgのmRNAを定法に従ってアガロースゲル電気泳動で分画してメンブレン（アマシャム社製Hybond-N+）に転写し、ノーザンハイブリダイゼーションを行った。プローブとしてはDIG（ジゴキシゲニン）で標識したhucep-1のcDNA断片を用いた。標識にはDIGオリゴヌクレオチド・テイリングキット（ベーリンガーマンハイム社製）を使用し、方法は本キットの手順に従った。ハイブリダイゼーションは以下の組成の溶液中で（濃度は全て終濃度）、51℃で5時間行った。

5xSSC

1% Blocking Buffer

0.1% N-ラコトリケチオトリカム

0.02% SDS

50 μg/ml polyA

1pmol/ml DIG 標識合成DNA

【0034】ハイブリダイゼーション終了後、メンブレンを2xSSC、0.1%SDS、次いで0.5xSSC

C、0.1%SDSを用い、51℃で洗浄した。メンブレン洗浄後、DIG発光検出キット（ベーリンガーマンハイム社製）を使用し、当該キットの手順に従ってメンブレンを処理した。シグナルの検出には、Hyperfilm™-ECL（アマシャム社製）フィルムを使用した。その結果、pREhucep1を導入したPC12細胞のほうがpREP10を導入したPC12細胞よりも、hucep-1遺伝子の発現量が多かった。

【0035】4) NGF除去培地中での増殖

3)でhucep1遺伝子の高発現を確認することができた安定な形質転換体を増殖培地で培養した。細胞密度が50%になった時点での血清を含まない培地に置換して3日間培養し、MTT (3-(4,5-Dimethylthiazol-2-yl)-2,5-diphenyl-tetrazolium bromide) 法 (Mossman, T., J. Immunol Methods 65, 55-59 (1985)) で生存細胞数を測定した。pREhucep1を導入したPC12細胞は、対照として用いた、pREP10導入細胞に比べて生存細胞数が有意に多かった。

【0036】

【配列表】

配列番号 (SEQ_ID_NO) : 1

配列の長さ : 456 残基

配列の型 : アミノ酸

トポロジー : 直鎖状

配列の種類 : 蛋白質

配列

```

MetPheGluGluProGluTrpAlaGluAlaAlaProValAlaAlaGlyLeuGlyProVal  20
IleSerArgProProProAlaAlaSerSerGlnAsnLysGlySerLysArgArgGlnLeu  40
LeuAlaThrLeuArgAlaLeuGluAlaAlaSerLeuSerGlnHisProProSerLeuCys  60
IleSerAspSerGluGluGluGluGluArgLysLysLysCysProLysLysAlaSer  80
PheAlaSerAlaSerAlaGluValGlyLysLysGlyLysLysLysCysGlnLysGlnGly 100
ProProCysSerAspSerGluGluGluValGluArgLysLysLysCysHisLysGlnAla 120
LeuValGlySerAspSerAlaGluAspGluLysArgLysArgLysCysGlnLysHisAla 140
ProIleAsnSerAlaGlnHisLeuAspAsnValAspGlnThrGlyProLysAlaTrpLys 160
GlySerThrThrAsnAspProProLysGlnSerProGlySerThrSerProLysProPro 180
HisThrLeuSerArgLysGlnTrpArgAsnArgGlnLysAsnLysArgArgCysLysAsn 200
LysPheGlnProProGlnValProAspGlnAlaProAlaGluAlaProThrGluLysThr 220
GluValSerProValProArgThrAspSerHisGluAlaArgAlaGlyAlaLeuArgAla 240
ArgMetAlaGlnArgLeuAspGlyAlaArgPheArgTyrLeuAsnGlnGlnLeuTyrSer 260
GlyProSerSerAlaAlaGlnArgLeuPheGlnGluAspProGluAlaPheLeuLeuTyr 280
HisArgGlyPheGlnSerGlnValLysLysTrpProLeuGluProValAspArgIleAla 300
ArgAspLeuArgGlnArgProAlaSerLeuValValAlaAspPheClyCysGlyAspCys 320
ArgLeuAlaSerSerIleArgAsnProValHisCysPheAspLeuAlaSerLeuAspPro 340
ArgValThrValCysAspMetAlaGlnValProLeuGluAspGluSerValAspValAla 360
ValPheCysLeuSerLeuMetGlyThrAsnIleArgAspPheLeuGluAlaAsnArg 380
ValLeuLysProGlyGlyLeuLeuLysValAlaGluValSerSerArgPheGluAspVal 400
ArgThrPheLeuArgAlaValThrLysLeuGlyPheLysIleValSerLysAspLeuThr 420
AsnSerHisPhePheLeuPheAspPheClnLysThrClyProProLeuValClyProLys 440
AlaGlnLeuSerGlyLeuGlnLeuGlnProCysLeuTyrLysArgArg 456

```

[0037]

[配列表]

配列番号 (SEQ_ID_NO) : 2

配列の長さ : 1368 塩基

配列の型 : 二本鎖

トポロジー : 直鎖状

配列の種類 : 核酸

配列

10	20	30	40	50	
ATGTTCCAAG	ACCCCTGACTG	GGCCGACCCG	CCCCCAGTAG	CCCCGGCCCT	50
TGGGCCCCCTA	ATCTCACGAC	CTCCCGCTCC	GGCCTCCCTCG	CAAAACAAGG	100
GCTCCAAGCC	CCGCCAGCTC	TTGGCCACAT	TACGGGCCCT	AGAGGCACCA	150
TCTCTTTCCC	ACCATCCCCC	CAGCCTATGT	ATAAGTGACT	CTGAGGAGGA	200
GGAGGAGGAA	AGGAACAACA	AATCCCCAA	AAAGGCATCA	TTTGGCAGTC	250
CCTCTGGCTGA	AGTAGGGAAAG	AAAGGAAACA	AGAAATCTCA	AAAACAGCCC	300
CCACCTTGCA	GTGACTCTGA	CGAAGAAGTA	GAAAGAAGA	ACAAATGCCA	350
CAAACAGGCT	CTTGTGGCCA	GTGACTCTGC	TGAAGATCAG	AAAAGAAACA	400
GCAAATGCCA	AAACATCCC	CCTATAAATT	CAGCCCAACCA	CCTGGACAAT	450
GTTGACCAAA	CAGGTCCCCA	ACCCCTGAAAC	CGTAGTACTA	CAAATGATCC	500
ACCAAACCAA	ACCCCTGGCT	CCACTTCCCC	TAAACCCCT	CATACATTAA	550
GCCCCAAGCA	GTGGCGGAAC	CGGCCAAAGA	ATAAGAGAAC	ATGTAAGAAC	600
AAGTTTCAGC	CACCTCAGGT	CCCAGACCCAG	CCCCCAGCTG	ACGGCCCCAC	650
AGAGAACACA	CAGGTGTCTC	CTGTTCCCAA	GACAGACACC	CATCAGGCTC	700
GGGCACGGGGC	TTTGGCGACCC	CCGATGGCAC	ACCGGGCTGGA	TGGGGCCCCA	750
TTTCGCTTAC	TCAATCAACA	GTGTTACTCA	GGGCCCCACCA	GTGCTGCCACA	800
GGCTCTCTTC	CAGGAAGACC	CTGAGGCTTT	TCTTCTCTAC	CACCCGGCCT	850
TCCACAGCCA	AGTGAAGAAC	TGGCCACTGCG	ACCCAGTGGA	CCGCATGCC	900
AGGGATCTTC	GGCAGCGGCC	TGGCATCCCTA	GTGGTGGCTG	ACTTGGCTG	950
TGGGGATTGC	CGCTTGGCTT	CAACTATCCG	GAACCCCTGTG	CATTGCTTTG	1000
ACTTGGCTTC	TCTGGACCCCT	AGGGTCACTG	TGTGTGACAT	GCCCCAGGTT	1050
CCTCTGGAGC	ATCAGTCTGT	GGATGTGGCC	GTGTTTGGCC	TTTCACTGAT	1100
GGGAACCAAC	ATCAGGGACT	TCCTAGACCA	GGCAAATAGA	CTACTGAAGC	1150
CAGGGGGTCT	CCTGAAAGTC	GCTCAGGTCA	GCACCCGCTT	TGAGGATGTT	1200
CGAACCTTTC	TGCGGGCTGT	GACCAAGCTA	GGCTTCAAGA	TTGTCCTCAA	1250
GGACCTGACC	AACAGCCATT	TCTTCTTGT	TCATTTCCAA	AACACTGGGC	1300
CCCCCTCTGGT	AGGGCCCAAG	GCTCAGCTTT	CAGGCCTCCA	GCTTCAGCCA	1350
TCTCTCTACA	ACCCCAAGG				1368

【図面の簡単な説明】

【図1】図1の配列-1は、大脳皮質のcDNAライブラリーより得られる組み換え体中で高い発現頻度を示すDNA断片を表わし、配列-2, 3, 4及び5は、配列-1を含むDNA断片の増幅に用いたオリゴヌクレオチドを示す。

【図2】配列-1を含むDNA断片を示す。

【図3】遺伝子huccep-1の塩基配列決定の方法を示す。

【図4A】遺伝子huccep-1の塩基配列及びそれに

よってコードされるアミノ酸配列を示す。

【図4B】遺伝子huccep-1の塩基配列及びそれに
よってコードされるアミノ酸配列を示す。

【図4C】遺伝子huccep-1の塩基配列及びそれに
よってコードされるアミノ酸配列を示す。

【図5】組み換えベクターpGEhuccep-1の構築を示す。

【図6】発現ベクターpREhuccep-1の構築を示す。

【図1】

配列-1

GATCTCAAAAC TCCAGGCTCA GAACTGTGAA GACTGTTCC AGCCTGGCTG 50
 TGAGCCAAGA CCTGGTTCCCT GGTGGACCCCT GAGGACAAAG TGTGATAAAA 100
 CCTCTGGCTC AGACTTGCTC TACTGAAGGC TTCTTGGTTA TAAGATGCAT 150
 AAAGTCACTG GGGCTAGCTA AACAAATAAAG AGTTTATTGT GAGAAA 196

配列-2

5' TTAGCTAGCCCCAGTGACTTTATGCA

配列-3

5' GTAGAGCAAGTCTGAGCCAGAGGTTTAT

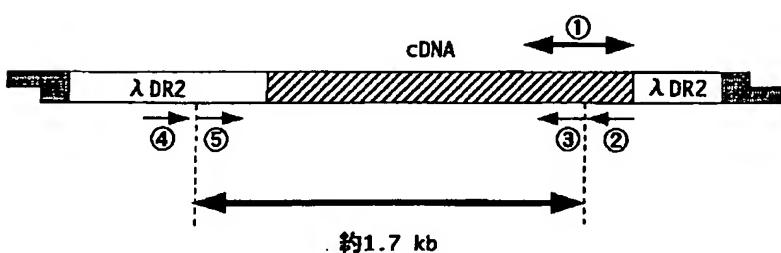
配列-4

5' AACGCCATTTGACCATTCAACCACATTGGTG

配列-5

5' GGAAC TGAAAAACCAAGAAACTTAAC TGGTAAG

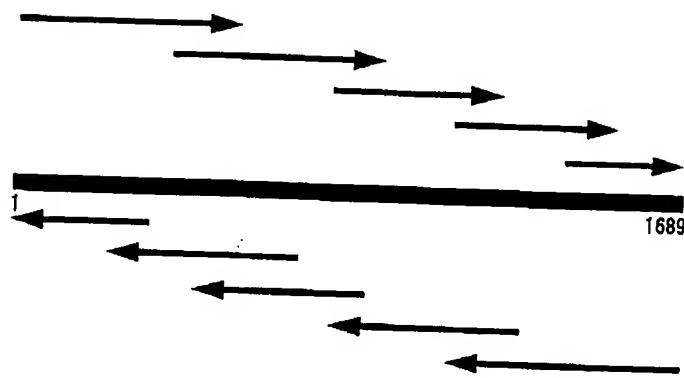
【図2】



- ① 配列-1
- ② 配列-2
- ③ 配列-3
- ④ 配列-4
- ⑤ 配列-5

【図3】

塩基配列決定の方法



【図4C】

CITGTTGATTCCAAAAGACTGGGCCCCCTCTGGTAGGGCCCAAGGCTCAGCTTCAGG 1500
 L F D F Q X T G P P L V G P K A Q L S G

CCTGCAGCTTCAGCCATGTCTACAAGGCCAGGTGACCTCTGGATCTCCTTGAAAGGG 1560
 L Q L Q P C L Y K R R *

GAGGCAGATCTCAAACTOCAGGCTCAGAACTGTGAAGACTGTTCCAGCCTGGCTGTGAG 1620

CCAAGACCTGGTTCTGGTCCACOCTGAGGACAAAGTGTGATAAAACCTCTGGCTCAGAC 1680
 TTGCTCTAC

1689

— : ベクター配列

【図4A】

GGAACTGAAAAACCAGAAAGTTAACTGGTAAGTTTAGTCTTGTCTTGTCTTATTTCAGGT 60
CCCGGATOCGCCGGTTCTGGCAGGTCTCGCGCTCCCACTTCCAGGGAGCCGTGTGC 120
*
ACGTGGAGAGACGGGGACTCGGCGACCCCTGCCCCTCCGACCCTCATGTTCGAAGACCC 180
M F E E P
TGAGGTGGCCGGAGGGGGCCCCAGTAGGCCGGCCCTGGCCCCGTAATCTACGACCTC 240
E V A E A A P V A A G L G P V I S R P P
GCCTGCGGCCCTCGCAAAACAAAGGGCTCCAAAGCCCCGCCAGGCTCTGGCCACATTACC 300
P A A S S Q N K G S K R R Q L L A T L R
GGCCCTAGAGGGCACCATCTTTCCAGCACCCCCCAGCCCTATGTTAAGTACTCTGA 360
A L E A A S L S Q H P P S L C I S D S E
GGACGGAGGGAGGGAAAGGAAGGAAGAAATGCCCAAAAAGGCATCATTGCAGGCCTCC 420
E E E E E R K K K C P K K A S F A S A S
TGCTCACTAGGGAAGAAAAGGGAAAGAAATGTCAAAAAACGGCCACCTGCAGGTGA 480
A E V G K K G K K C Q K Q G P P C S D
CTCTGAGGAAAGGTGAAAAGGAGAAGAAATGCCAAAACAGGGCTTTGTGCAGGTGA 540
S E E E V E R K K K C H K Q A L V G S D
CTCTGCTAAGATCAAAAGAAAGGGAAATGCCAAAACATGCCCCTTAAAATTCAG 600
S A E D E K R K R K C Q K H A P I N S A
CCAGCACTGGACAAATGTGCCCAAACAGGTCCAAAGGCCTGGAAGGGTAGTACTACAA 660
Q H L D N V D Q T G P K A V K G S T T N
TGATCCACCCAAAGCAAAAGCCCTGGGTCCACTTCCCTAAACCCCCCTCATAACATTAAGCC 720
D P P K Q S P G S T S P K P P H T L S R

【図4B】

CAAGCAGTGGCGAACCGGCAAAAGAATAAGAGAAGATGTAAGAACAGTTAGCCACC 780
 K Q W R N R Q K N K R R C K N K F Q P P

 TCAGGTGCCAGACCAAGGCCAGCTGAGGCCACAGAGAACAGAGGTCTCCTGT 840
 Q V P D Q A P A E A P T E K T E V S P V

 TCCAGGACACAGCCATGAGGCTGGCAGGGCTTCCAGGCCATGGCACAGCG 900
 P R T D S H E A R A G A L R A R M A Q R

 GCTGGATGGGCCGATTCGCTACCTCAATGAACAGTTGACTCAGGGCCACAGTGC 960
 L D G A R F R Y L N E Q L Y S G P S S A

 TGCACAGCGTCTTCCAGGAAGACCCCTGAGGCTTCTCTACCAACCGGGCTTCCA 1020
 A Q R L F Q E D P E A F L L Y H R G F Q

 GAGCCAAGTGAAGAAGTGGCACTGCAGCCAGTGGACCGCATCCAGGGATTCGCA 1080
 S Q V K K W P L Q P V D R I A R D L R Q

 GCGGCCTGCATCCCTAGGGTGGCTGACTTCGGCTGGGATGCCCTGGCTTCAG 1140
 R P A S L V V A D F G C G D C R L A S S

 TATCCGAAACCTGTGCATTGCTTGACTTGGCTCTGGACCCCTAGGGTCACTGTG 1200
 I R N P V H C F D L A S L D P R V T V C

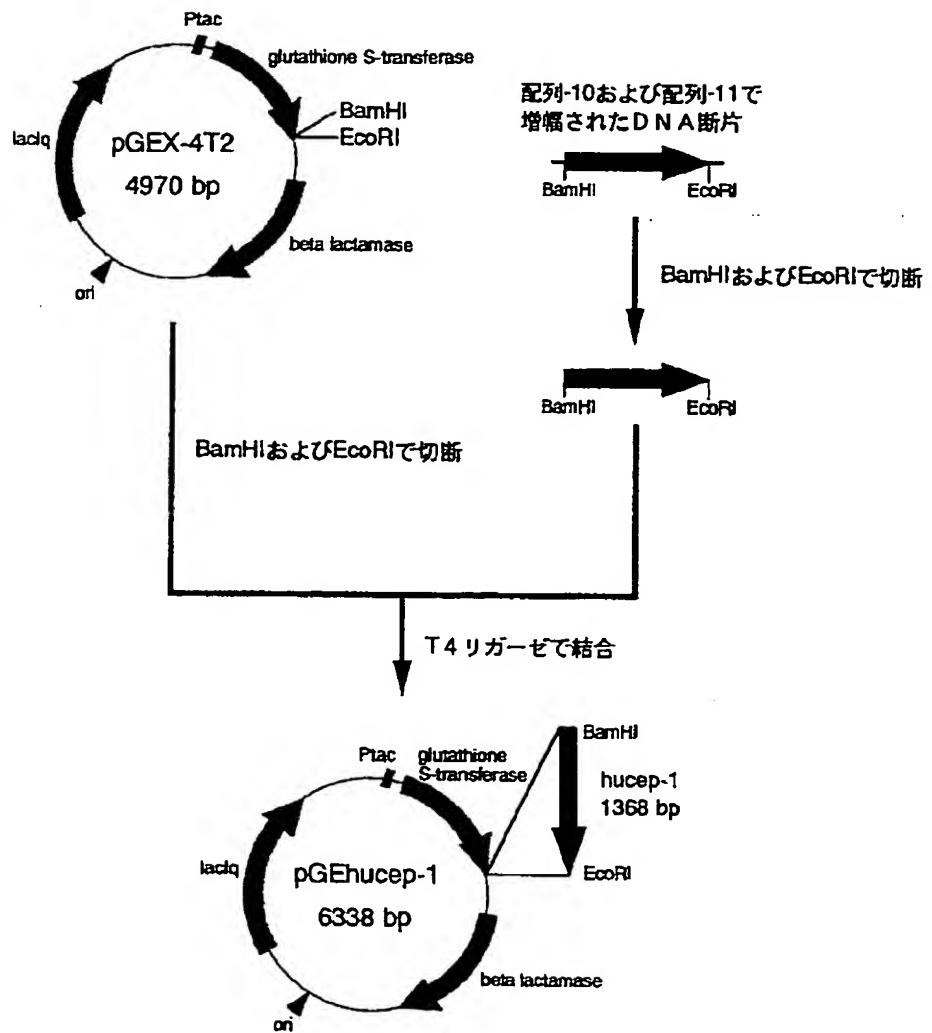
 TGACATGGCCAGGTCCCTGGAGGATGAGTCTGGAATGGCTGTTTGCTTC 1260
 D M A Q V P L E D E S V D V A V F C L S

 ACTGATGGAAACCAACATCAGGGACTTCTAGAGGAGCCAAATAGACTGAAGCCAGG 1320
 L M G T N I R D F L E E A N R V L K P G

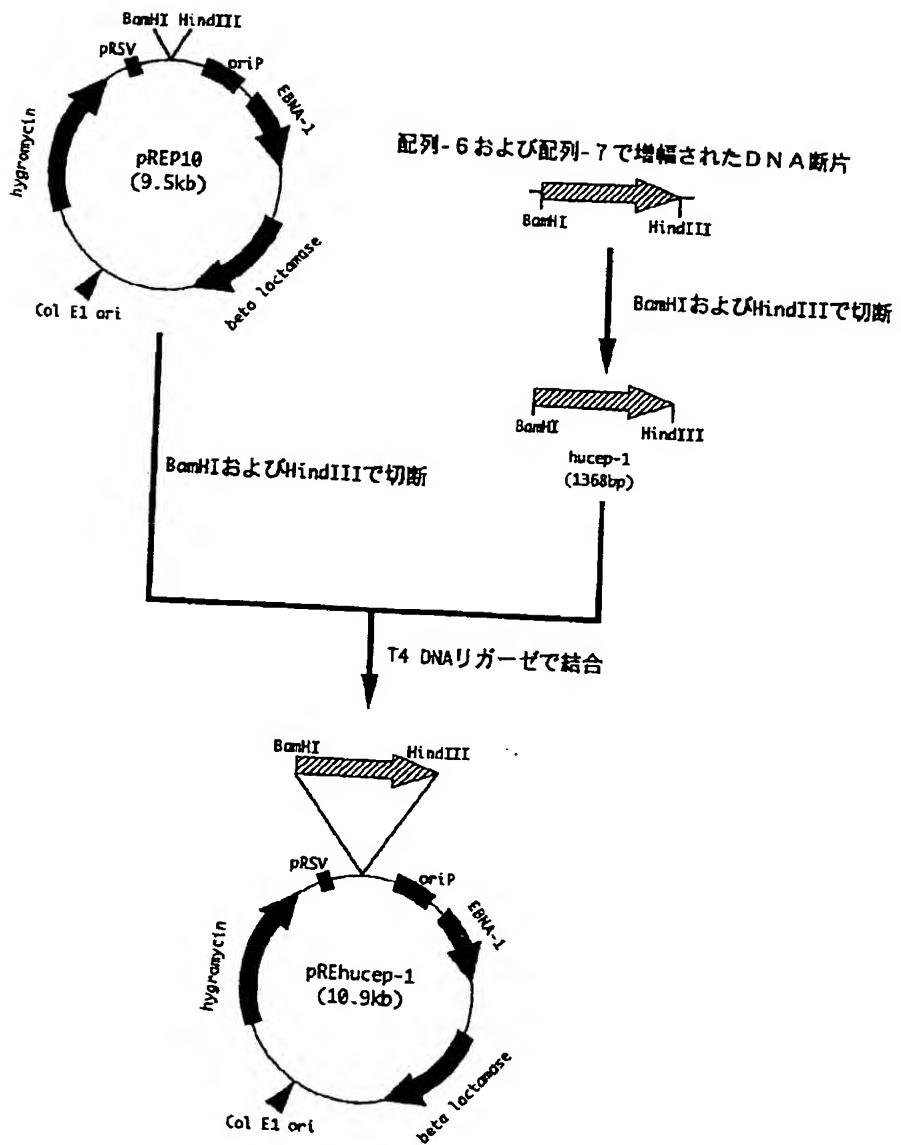
 GGGTCTCTGAAAGTGGCTGAGGTCAAGCAGCCGTTGAGGATGTTGAAACCTTCTGCG 1380
 G L L K V A E V S S R F E D V R T F L R

 GGCTGTGACCAAGCTAGGCTCAAGATTGCTCTCAAGGACCTGACCAACAGCCATTCTT 1440
 A V T K L G F K I V S K D L T N S H F F

【図5】



【図6】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 6

C 1 2 P 21/02

//(C 1 2 N 15/09

C 1 2 R 1:91)

(C 1 2 N 1/21

C 1 2 R 1:19)

(C 1 2 P 21/02

C 1 2 R 1:19)

識別記号

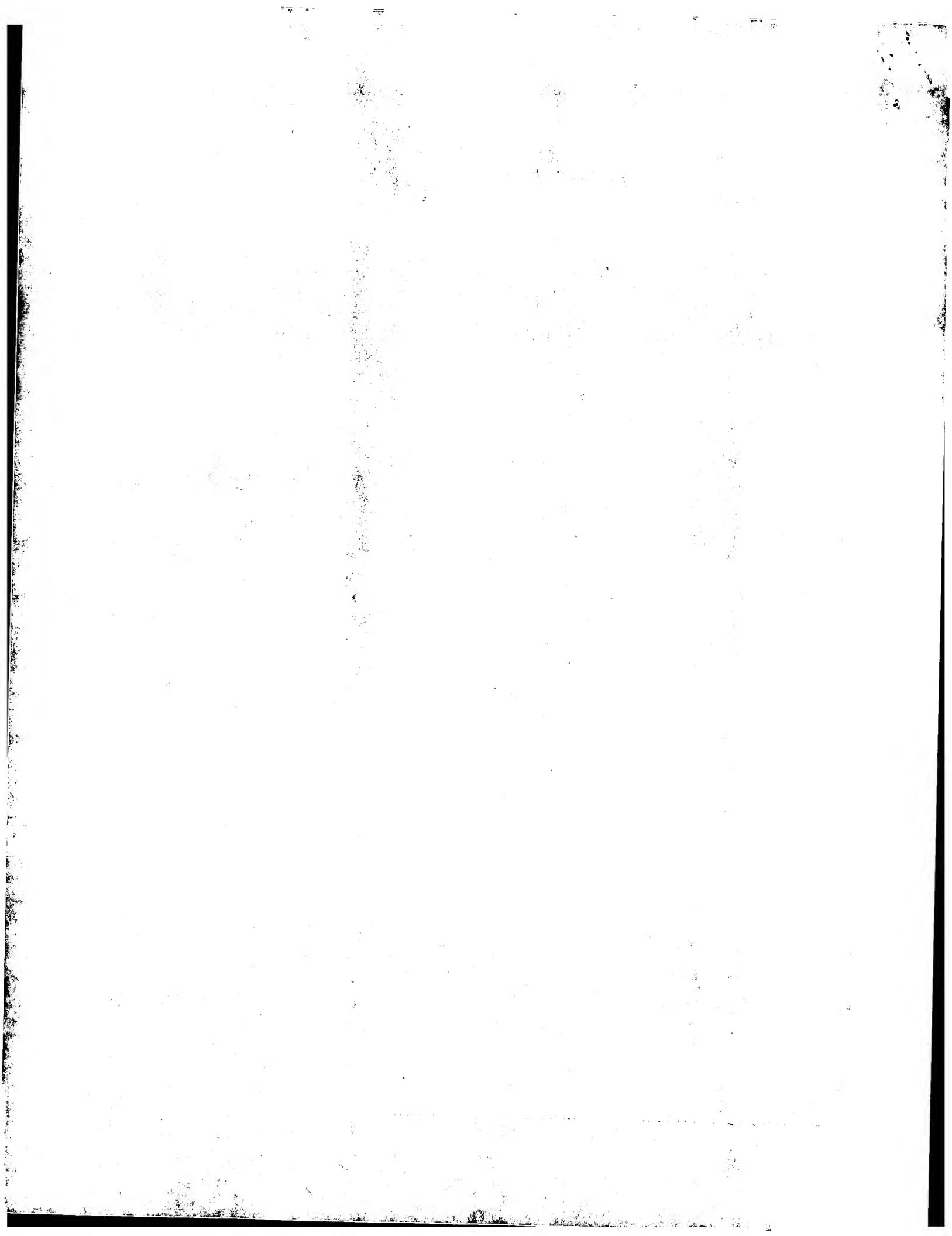
ZNA

F I

A 6 1 K 37/02

A A B

(72)発明者 高山 喜好
東京都豊島区高田3丁目24番1号 大正製
薬株式会社内



NEW GENE AND PROTEIN ENCODED BY THE SAME

Patent number: JP11032769

Publication date: 1999-02-09

Inventor: YOSHIMOTO MAKOTO; YAZAKI MADOKA; MATSUMOTO YOSHIYO;
TAKAYAMA KIYOSHI

Applicant: TAISHO PHARMACEUT CO LTD

Classification:

- **International:** C12N15/09; C07K14/48; C12N1/21; C12N5/10; C12P21/02

- **european:**

Application number: JP19970194672 19970722

Abstract of JP11032769

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain the subject protein useful for treating neurodegenerative diseases such as Alzheimer's disease and Parkinson's disease, comprising a protein derived from a human cerebral cortex, containing a specific amino acid sequence and nerve having cell function activating activity.

SOLUTION: This new protein comprises a protein composed of an amino acid sequence shown by the formula or a protein composed of an amino acid sequence obtained by deletion, substitution or addition of one or several amino acids in the amino acid sequence shown by the formula and also has a neurocyte functional activation activity, and is useful for a therapeutic agent for ischemic brain diseases, Alzheimer's diseases, Parkinson's diseases, etc. The new protein is obtained by screening a cDNA library prepared by using an mRNA extracted from a human cerebral cortex by plaque hybridization using the 3' terminal fragment as a probe, incorporating the prepared gene to a vector, transducing the vector into a host such as Escherichia coli, transforming the host and culturing the transformant.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

THIS PAGE BLANK (USPTO)